からしだね

2021年7月号
(572号)

キリストの受難 カトリック池田教会
主任：ノノイ・プラザ神父
住所： 〒563-0041　池田市満寿美町9－26
TEL ： 072-751-2400　FAX：072-753-4624
URL(ホームページ)：http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm

本号の記事の主題など

復活祭メッセージ　教皇フランシスコ
７月のガラスケースのみことば
7月のみことばについての解説　ノノイ神父
財務こぼれ話　第三回
今月の表紙絵について
7月･8月の黙想会のお知らせ
7月の行事予定

巻頭言

教皇フランシスコ、2021年復活祭　メッセージ
（ローマと全世界へ）　2021年4月4日

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、ご復活おめでとうございます。

世界中のいたるところで、今日、教会の知らせが響き渡ります。「主は、仰せのとおり死者のうちから復活された。アレルヤ。」

復活祭のメッセージは、奇跡を起こすものでも、魔法のことばを教えてくれるものでもありません。わたしたちが陥っているこの苦境から脱する道を指し示すわけでもありません。パンデミックはいまも猛威をふるっています。社会的、経済的な危機はいまだに深刻な状態にあり、とくに貧しい人に大きな影響を及ぼしています。それにもかかわらず――とんでもないことですが――武力紛争と軍備拡張はとどまることを知りません。今、こんなことがあっていいはずがありません。

復活祭のメッセージは、この複雑な現実を前にして、もしくはむしろそのただ中で、決して失われない希望をもたらす出来事を、この短いことばで伝えています。「イエスは十字架につけられ、復活されました。」天使でも幽霊でもなく、顔も名前もある生身の人間、イエスのことを伝えているのです。ご自分が神の子、キリストであると言われたために、ポンティオ・ピラトにより十字架刑に処せられたイエスが、聖書に従い、弟子たちに事前にお伝えになった通りに、三日目に復活されたと、福音は伝えています。

十字架にかけられたかたが、まさに復活されました。御父はイエスを復活させました。イエスは、御父の救いのみ旨を完全に成し遂げ、わたしたちの弱さ、病、死さえも担い、わたしたちの痛みを身に受け、わたしたちの罪を担ってくださったからです。ですから、御父はイエスを高く上げ、イエス・キリストは今も永遠に生きておられます。イエスこそが主です。

復活を目のあたりにした人々は、とりわけ重要な事実を伝えています。それは、イエスの手と足と脇腹には傷があったということです。それらの傷は、イエスのわたしたちへの愛の、いつまでも消えないしるしです。からだや心に過酷な試練を受け、苦しんでいる人は皆、これらの傷を逃れ場とし、決して失われない希望という恵みを受けることができます。

復活されたキリストは、このパンデミックのために今も苦しんでいる人々、病者、そして最愛の人を亡くした人々の希望です。主が彼らをいやし、医師と看護師の働きを支えてくださいますように。すべての人、なかでもわたしたちの中でもっとも弱い人には助けが必要です。そして、だれもが必要なケアを受ける権利をもっています。皆がこのパンデミックと戦うことを余儀なくされ、ワクチンがその戦いに欠かせない手段となっている今日、このことはなお一層、明白です。「ワクチンを世界に行き渡らせる」という精神のもと、ワクチンの配布の遅れを解消し、とくに貧しい国における配布を促すために協力するよう、わたしは国際社会全体に求めます。

十字架にかけられ、復活された主は、仕事を失った人や、経済的な苦境に陥っても社会から適切な保護を受けられない人の心の支えです。適切な生活水準を維持するのに必要な支援を、すべての人が、とくに困窮している家庭が受けられるよう、主が各国政府を動かしてくださいますように。悲しいことに、このパンデミックにより、貧しい人の数と、数えきれないほど多くの人の絶望が激増しています。

「あらゆるかたちの貧しい人が、希望を取り戻せるようにしなければなりません。」聖ヨハネ・パウロ二世は、ハイチを訪問した際にこう述べました。ハイチの愛する人々が、困難に負けず、信念と希望をもって未来を見つめられるよう、わたしは今、思いと励ましを送ります。ハイチの兄弟姉妹の皆さん、わたしは皆さんのことをとくに心配しています。わたしは皆さんのすぐそばにいます。寄り添っています。そして皆さんの問題が抜本的に解決されるよう望みます。大切なハイチの兄弟姉妹の皆さん、わたしは皆さんのために祈ります。

復活されたイエスは、長い間、学校にも大学にも行けず、友達にも会えない若者の皆さんの希望でもあります。バーチャルな人間関係だけでなく、直に人とかかわることは、だれにでも必要なことですが、人柄や性格が形成される時期にはなおのことです。先日の金曜日に行われた子どもたちの十字架の道行では、そのことを実感することができました。わたしは世界中の若者に寄り添います。そして今、ミャンマーで民主主義のために奮闘し、自分たちの声を平和的に届けようと努めている若者のとりわけ近くに寄り添います。愛だけが憎しみを一掃できることを彼らは知っているのです。

復活されたイエスの光が、紛争や貧困のために逃れてきた移住者の再生の源となりますように。彼らの顔には、ゴルゴタの丘を上られる主の、苦しみでゆがんだ傷ついた顔を見いだすことができます。連帯と人類の兄弟愛の目に見えるしるし、死に対するいのちの勝利のあかしが、彼らに欠けることがありませんように。その勝利をわたしたちは今日、祝っているのです。苦しみのうちに避難先を探し求めている人を寛大に受け入れている国々に、とくにシリア内戦からの避難民を大勢受け入れているレバノンとヨルダンに感謝します。

出会いと共存と多元主義の地となるという召命をもちながらも、困難で不安定な時を過ごしているレバノンの人々が、復活された主に慰められ、国際社会から支援を受けることができますように。

わたしたちの平和であるキリストが、内戦により引き裂かれ、大勢の人が非人間的な生活を強いられている、愛するシリアの内戦に終止符を打ってくださいますように。また、人を押し黙らせるとんでもない静寂によって実情がもみ消されているイエメンと、十年にわたる血にまみれた対立や争いから脱する道をやっと見つけたリビアでも、争いを終結させてくださいますように。すべての当事者が、争いを終わらせ、紛争で疲弊しきった人々が平和に暮らし、自国で生活を立て直せるようにするために、具体的な措置をとりますように。

主の復活は、わたしたちをおのずとエルサレムへと導きます。エルサレムに平和と平安がありますように（詩編122参照）。だれもが互いに兄弟姉妹と感じることのできる出会

いの地となるという召命に、エルサレムが応えますように。また、イスラエルとパレスチナの人々が、持続的な和解に到達するために対話する力を取り戻し、両国が平和と繁栄のうちに隣国として共存できますように。

この祭日にあたり、わたしの思いは、先月、喜びのうちに訪問したイラクに再び向かいます。人類家族が神のすべての子らをもてなし、受け入れるという神の夢が、イラクが平和への道を引き続きたどることによって実現されるよう祈ります[1]。

復活された主の力により、国内の暴力行為と国際テロにより未来が脅かされているアフリカの人々、とくにサヘル地域、ナイジェリア、エチオピアのティグレ地方、モザンビークのカボデルガド地方の人々が支えられますように。紛争を平和的に終結させるための営みが、和解と真の連帯の精神のうちに行われる前向きで兄弟愛に満ちた対話を通して、人権といのちの聖性に対する敬意をもって続けられますように。

あまりに多くの戦争、あまりにも多くの暴力行為が世界中で今も行われています！わたしたちが争いに傾きがちな考え方を克服できるよう、平和の主が助けてくださいますように。捕虜となった人々、とくにウクライナ東部とナゴルノ・カラバフで捕らえられた人々を、主が無事に家族のもとに戻してくださいますように。また、最新の武器の開発競争に歯止めをかけるよう、世界中の指導者を促してくださいますように。今日、4月4日は国際地雷デーです。人の目を欺くこの恐ろしい武器は、大勢の無実の人を殺傷し、ときには障がいを負わせます。地雷は、人類が「破壊と死の脅威におびえずに、いのちの道をともに歩む」[2]のを阻んでいます。こうした死の武器がなければ、世界はどんなによくなることでしょう！

兄弟姉妹の皆さん、今年もまた、さまざまな地域で、多くのキリスト者が厳しい制約のもとに復活祭を祝っています。ミサにあずかれないことすらあります。それらの制約と、世界における礼拝と宗教の自由に対する制約が解かれ、すべての人が自由に神に祈り、神をあがめられるよう祈りましょう。

多くの困難の中にあっても、わたしたちはキリストの傷によっていやされていること（一ペトロ2・24参照）を忘れないでください。わたしたちの苦しみは、復活された主の光の中で変わっていきます。死のあったところに、今はいのちがあります。死を悼む悲しみのあったところに、今は慰めが満ちています。イエスは十字架を受け入れ、わたしたちの苦しみに意味を与えてくださいました。さあ、そのいやしの恵みが世界中に広まるよう祈りましょう。ご復活おめでとうございます。

注
（１）「諸宗教代表との集いでのスピーチ（2021年3月6日、ウル）」参照。
（２）聖ヨハネ・パウロ二世、「お告げの祈り」でのことば（1999年2月28日）。

７月のガラスケースのみことば

あなたは、この世にのぞまれて生まれてきた大切な人

マザー･テレサ

（福音宣教委員会撰）

７月のみことばについての解説　ノノイ・プラザ神父

マザー・テレサが、この美しい言葉を口にした時、聖書の中で神の未来を予知する力と無限の知恵について頻繁に述べられていることを意識していたに違いありません。そこに書かれているのは、私たちはこの世に生を受ける前から、神の無限の御心の中に育まれてきたということです。

神がなされることに、偶然ということはなく、すべての出来事には意味があり、私たち一人ひとりは、理由があって生まれてきたのです。私たちがこの世に生を受けたのは、それを神が望んでおられたからです。

エレミヤが預言者として召命を受けた時、神がエレミアに仰った言葉が聖書の中に記されています。エレミア書1章5節の中で「わたしはあなたを母の胎内に造る前からあなたを知っていた。母の胎から生まれる前にわたしはあなたを聖別し、諸国民の預言者として立てた。」と神は仰いました。

この啓示を聞かされた時、おそらくエレミヤは非常に驚いたに違いありません。私たちに置き換えても分かるように母親の胎内に宿る前に、神が私たちの誕生を計画されていたというのですから。私たちを形成するすべてのもの…私たち自身の特徴や性格、身体だけではなく精神的要素…は、神の永遠の恵みによって前もって形作られていたということです。これは真に驚くべきことでしょう。

しかし、私たちはマザー・テレサがこの言葉を言った場面を思い起こす必要があります。マザー・テレサは、見捨てられた人、病人、死にゆく人の心に寄り添いたいと願って、「あなたは、この世にのぞまれて生まれてきた大切な人」と語りかけ、一人ひとりの命の尊厳をとても大事にしました。この言葉を私たち自身が理解するには、マザー・テレサのように慈しみの心を持つことが必要です。

あなたと周りの人たちとの出会いやすべての出来事において、それぞれの人生は生まれる前から意義づけられていることを信じ、そして慈しみの心で互いを尊重し合うことによってはじめて、今はまだ分からなくても時が来れば全てにおいて最終的に意味を成すことができるのです。

このことを理解できるよう、海のように深く、岩のように固い信仰を祈り求めてください。アーメン。

財務こぼれ話　第三回　　財務委員会

池田教会が御受難修道会によって司牧されている教会であることは、皆様もよくご存知だと思います。でも、大阪大司教区と全く切り離されているわけではありません。

他の多くの近隣教会は大阪大司教区の教区教会ですが（ちなみに日生中央教会も）、それらの教会と同様に、池田教会を司牧してくださっている神父様の給与については大阪大司教区から御受難修道会に支払われています。また、池田教会も各教区教会が分担している教区納付金を負担しています。

これらの納付金は大阪大司教区の維持運営のためだけでなく、各教会を司牧する神父様方の人件費として使われ、結果として規模の小さい教会の運営を手助けしているのです。

池田教会が納付している教区納付金にはA、Bの2種類があります。

納付金Aは教区の維持管理費、諸委員会活動経費に充当されるもので、その納付基準は前年の小教区の教会維持献金（維持費）とミサ献金（堂内献金）の年間実績額の10%です。

納付金Bは教区の司牧者の人件費等に使われるもので、その負担額は各小教区の信徒数と献金収入額（先ほどの維持費と堂内献金）を組み合わせた算出式によっています。

なお、教区納付金には他にも教区職員の人件費に充当される納付金Cがありますが、これについては池田教会の負担はありません。

このように池田教会も大阪大司教区の中の教会として、大司教区の様々な活動に参加したり大司教区の要請を受けて災害時の募金活動等に対応したりするのはもちろんですが、財務的にも結びついていることがお分かり頂けると思います。

ちなみに、このコロナ下、教会活動の制限による各小教区の財務的な窮状に配慮されて、大阪大司教区では2021年度の納付金Bを3割減額（その分は大司教区が負担）する措置を取ってくださっています。

ご質問やご要望をお寄せください

今回の記事は6月度評議会でのご質問にお答えして書かせて頂きました。財務に関することでご質問やご要望があれば是非財務委員までお寄せください。

今月の表紙絵について

表紙の絵はペトロ岐部カスイ司祭肖像。アントニオ・カルディム『日本の精華』（1646年、ローマ刊）の挿絵として描かれたもの。大分県立先哲史料館提供の画像が2018年6月30日付朝日新聞デジタル版に掲載されている。

ペテロ岐部スカイは1587年7月に現在の大分県北端の国東半島海辺の岐部部落で船を操る大村藩の武家の子として誕生した。両親ともキリシタンであった。1600年に現長崎県の有馬領内にある神学校に入学し、1606年の卒業後は、同宿として宣教師や若い日本人の司祭のもとで働いた。

しかし、徳川家康の第二の切支丹禁制令（1614年）により、高山右近などの多くの切支丹の宣教師・司祭、修道士、指導者は国外追放を受けた。老齢の右近はマニラまでの荒海で小さな船の激しい揺れに苦しめられて、到着後間もなく落命したが、頑強で、若い岐部たちは着いた国際都市マカオの神学校で司祭への道を閉ざされた。1618年に海路で達したインドの国際都市ゴアでもその志を拒否され、陸路を経てエレサレムにあるイエスのゆかりの跡を初めて訪れた日本人となった。

更に、船員や隊商の手伝いなどの労働をしながらの旅を都ローマまで続けて、ローマのイエズス会で叙階されたのは1621年であった。その後入会が許されたイエズス会の聖アンドレーア修道院での研修とリスボンやマドリッドでの祈りに2年間を過ごした後、切支丹禁制令下の日本で生きる切支丹の告解を聴いて、赦しを与えるために、死の覚悟をもって帰国の旅に就いたのは1623年であった。

ゴアを経由してマカオ、シャムのマユタヤと移動して帰国への手掛かりを掴めなかったが、有馬の神学校でラテン語の師であったがマニラの地で司祭に叙階されたミゲル松田司祭に出会って、共同して、帰国の機会を探った。1630年にマニラから二人は海路で口之島を経て、九州の坊の津で商人として秘かに再入国を果たした。

しかし、三代将軍の徳川家光は切支丹弾圧に「穴吊り」と呼ばれる拷問と狡猾な誘惑を織り交ぜ、五人組連座制による監視体制を導入して、夜間でさへ司祭が外出するのを阻害した。こうして、司祭の数は減少を余儀なくされた。

岐部司祭は奥州へ移動した仙台藩内では、当初、司祭活動を行えたが、1937年に起きた九州島原で農民一揆のリーダーに切支丹が多くいたために、キリシタン弾圧が一層強化されて、岐部司祭は同僚の二人の司祭と共に江戸の幕府に密告された。拷問されても最後まで転ぶことを拒否した岐部司祭は徳川幕府の役人によって殺害された（1639年）。52歳であった。

日本カトリック中央協議会の下で列聖推進委員会が、福者ペトロ岐部司祭と187殉教者の列聖に向けた継続的な活動を行っている。その実現が待ち遠しい。下に示す小冊子の表紙絵（三牧樺ず子　画）には10名の殉教者が描かれているが、右から2列目の黒い髭の男性がペトロ岐部司祭である。

殉教者を想い、ともに祈る週間
改訂版
-福者ペトロ岐部司祭と187殉教者の列聖に向けてー

日本カトリック司教協議会
列聖推進委員会　編

２ヵ月ぶりの主日ミサ

復活祭を2年ぶりに祝った2021年はコロナ変異株の猛威に対処できなかったために、復活節第四・第五・第六主日、主の昇天、聖霊降臨の主日、三位一体の主日、キリストの聖体、年間第十一・十二の主日の計九度の主日ミサは近隣のカトリック教会と同様に池田教会でも開催されなかった。このコロナ感染が急に起こったために、多大な犠牲者を生み、日常生活を犠牲にせざるを得ない方も多かったであろうし、逆に、変貌の激しい世界情勢の変遷を読み解くために普段は読めない読書に集中した方も居られたと思われる。また、池田教会の一人ひとりは、この期間に不都合と自由があったからこそ、神からの呼びかけを聴き、他者への慈しみが溢れだすという宗教的な経験を持たれた方も少なくないし、福音書を深読みした方も多いかもしれない。

季節は春爛漫の4月末から梅雨末期と変化し、本日は聖堂でノノイ神父の司式で年間第十三主日のミサにやっと与ることができた。暦は6月2 7日となって、年の半分をも経過しようとしている。これからは、ある意味では様々な異常な経験をした方々がそれを教会共同体の中で披瀝し合う時が始まろうとしているのかもしれない。

７月・８月の黙想会のお知らせ
宝塚黙想の家

■日帰り黙想会　10：00～15:30
7月8日（木）
指導：染野 治雄 神父
7月16日（金）
指導：山内 十束 神父
7月20日（火）
指導：稲葉 善章 神父
８月は休み

■ 一泊黙想会
7月 6日（火）17：00～ 7日（水）15：30
指導：稲葉　善章 神父
7月17日（土）17：00～ 8日（日）15：30
指導：染野　治雄 神父
８月は休み

■ 祈りを深めるための聖書の基本
第１・３ 水曜日　10:00 ～ 12:00
指導：山内　十束 神父
８月は休み

■ カトリック教会のカテキズム
７月と８月は休み

上記の各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎0797（84）3111

７月の行事予定

7/1(木)　福者ペトロ岐部司祭と187殉教者
7/2(金)　聖体賛美式
からしだね7月号折込･発送
7/3(土)　からしだね7月号発行
10:00～12:30　アルファ･コース
7/4(日)　御受難会への献金
バザー委員会
典礼委員会
7/10(土)　ドレミの会(中止)
7/11(日)　典礼聖歌奉仕会
評議会
7/17(土)　合同お泊り会
7/18(日)　食物の奉献
中高生と共に奉げるミサ(中止)
日曜学校終業式
社会活動委員会
7/21(水)　釜ヶ崎訪問
7/25(日)　広報委員会
7/27(火)　ノノイ神父誕生日
7/30(金)　からしだね8･9月号折込･発送
7/31(土)　からしだね8･9月号発行

編　集　後　記

教会ミサへは、国道沿いを複数の寺院に沿いながら、往復することが多い。各々寺院の門には、当教会でいう『ガラスケースの御言葉』と同様のものが有る。それらは、“御聖訓”と称し×△天皇より出典とあったり、また御住職が一筆考察された語句が掲示されていたりする。私も、時に立ち止まっては読み返し思いをめぐらせる。

この度池田教会では、福音宣教委員会さんの努力で、新たに『ガラスケースの御言葉』が西側駐車場に増設される運びとなった。通りを行きかう人に、御言葉のメッセージに興味を持って頂き、いつか教会へと導かれ門扉をたたいてほしいと願う。

天使の微笑